

「焦る気持ちが 事故招く ゆとりを持って 安全運転」 平成30年度最優秀交通安全標語

朝夕冷え込む季節になりましたが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

皆様の安全運転で、7月～10月は無事故を継続しております。

昨今、各種の運転支援システムを搭載した先進安全自動車(「Advanced Safety Vehicle」。一般的に「サポカー」と呼ばれています。)が普及しています。運転支援システムは、ドライバーの運転をサポートして事故防止を図ることが目的ですが、一方でシステムに頼りすぎることなどによる事故も発生しています。そこで、当社の交通安全キャンペーン実施時のアンケートで「取り上げてほしい」と要望がありました、実用化されている運転支援システムの主な機能や使用に際しての留意点をまとめてみました。

II. 運転支援システム

1. 運転支援システムとは

運転支援システムとは、先進技術を利用してドライバーの認知・判断・操作をサポートし、安全運転を支援するシステムのことで、次々に新しい技術が開発され実用化されています。ドライバーのミスを低減させたり、運転作業を軽減させて心身の疲労を防止することなどにより、事故防止に大きな効果が発揮されると期待されています。

2. 実用化されている主な運転支援システム

運転支援システムにはさまざまなものがありますが、実用化されている主なものを紹介します。

※自動車メーカーや車種によって、搭載されている運転支援システムの名称が異なっている場合があります。

①衝突被害低減ブレーキ

前方の障害物との衝突を予測して警報を発し、ドライバーがブレーキ操作などの回避行動をとらない場合には自動的にブレーキを作動します。

②車線逸脱警報装置

走行車線を認識し、車線から逸脱した場合あるいは逸脱しそうになった場合に警報を発します。

③車間距離制御装置

センサーが前方の車を認識し、システムがアクセルやブレーキ操作を行うことで車間距離を一定に保ちます。

④ペダル踏み間違い時加速抑制装置

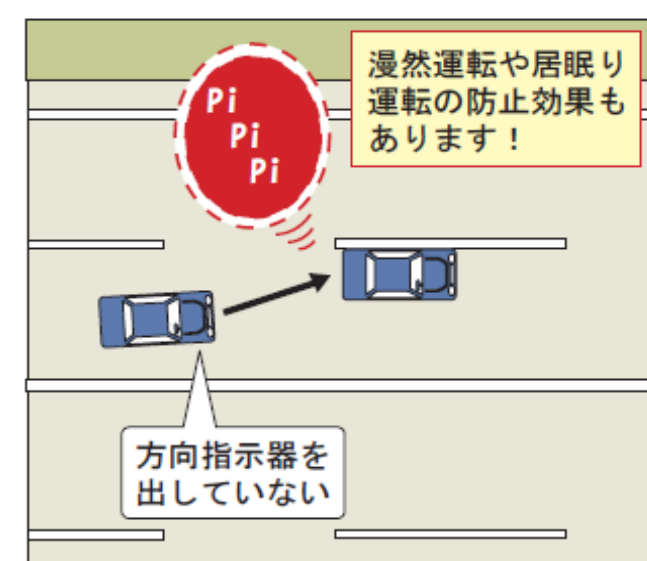
誤ってアクセルペダルを踏み込んだ場合に、警報でドライバーにブレーキ操作を促し、同時にエンジンの出力を抑え、急発進を抑制します。

⑤駐車支援装置

バックで駐車するとき、ハンドルを自動制御してバック駐車を補助します。



【車線逸脱警報装置の作動例】



3. 運転支援システムの使用に対する留意点

①運転支援システムに頼りすぎない

運転支援システムは安全運転に大いに役立つものですが、それを過信して頼り過ぎると油断が生じたり緊張感が薄れ、危険を早めに察知しようという意識が低下し、漫然運転や脇見運転に陥るおそれがあります。

運転支援システムは、あくまで「支援」をする装置であり、ドライバーになり代わって運転を行う装

置ではありません。運転の主体はドライバー自身であることを忘れないようにしましょう。

②作動条件や限界を正しく理解する

運転支援システムには作動条件や性能の限界があります。例えば、衝突被害軽減ブレーキでは、国土交通省がネット上に掲示している「衝突被害軽減ブレーキは万能ではありません！」で、どのような場合に障害物が認識できなかったり、回避できないかが映像で解説されています。作動条件や性能の限界を正しく理解するために、その要点を紹介しましょう。

①走行速度

衝突被害軽減ブレーキには、正常に作動する規定速度が設けられており、それを超えて走行している場合には障害物を検知できず回避できないことがあります。

②周囲の環境

夜間などの暗い道路や、朝夕の逆光状態で走行しているとき、夕立の道路を走行しているときなど、周囲の環境によっては障害物を回避できないことがあります。

③路面の状態

雪道のように路面が滑りやすい状態にある道路では制動距離が長くなるため、装置は正常に作動していても障害物の手前で停止できないことがあります。また、急な下り坂でも障害物の手前で停止できないことがあります。

●上記は一例です。運転支援システムの作動条件や性能は、自動車メーカーや車種によって異なる場合があります。車の取扱説明書をよく読んで、それぞれのシステムの作動条件や性能の限界を正しく理解し、適切に使用することが大切です。



Ⅲ. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	通勤途中の朝
どこで	片側2車線の道路で
何をしている時に	渋滞していない左側車線を走行中
どうなった	渋滞している右側車線を走行している車が突然左側車線に車線変更してきてヒヤッとした

Ⅳ. 今月のスローガン (企業開発センター交通問題研究室)

出発前 全員確認

シートベルト